

ひがしひろしま 郷土史研究会ニュース

No.594

2024年2月

日本最後の酒都

1月例会概要報告

1月例会は、1月27日(土)13時30分から市役所北館市民協働センターで開催され21名が参加した。発表は、松木津々二氏が、西条が「酒都」と呼ばれた時代について解説した。

観光パンフレットやタクシーの側面などに「酒都西条」、「三大酒処(三大銘醸地)」と書かれたフレーズをよく見かけるが、いつの時代の話なのか分かっている人は殆どいなく混同して使われている。

「酒都」とは、日本酒づくりの首都(中心地)で、日本酒づくりをリードした地である。最初にリードした地が「伊丹」、次に兵庫の「灘五郷」、そして「西条」と続き、酒都は変遷する。

西条が「日本の酒都」であった時代は、100年余り前の大正～昭和の戦前までである。戦後は「酒都」の概念は無くなっていった。

また、「三大酒処(三大銘醸地)」と呼ばれた時代は、吉名出身の池田勇人が首相に就任した後の高度経済成長期(昭和40年代)の時代である。

松木氏は、100年余り前の「酒都西条」、50年余り前の「三大酒処(三大銘醸地)」が混同して使われることに対し、町の歴史を放置し続ければ、100年後には町の歴史は消える。と警鐘を鳴らした。

<1月例会参加者(敬称略)>

重竹訓江、国永昭二、中村健治、松木津々二、宍戸元文、赤木達男、船越雄治、光田清志、中川平介、蔵楽知昭、三嶋昇、西本嘉佳、天野浩一郎、藤原美春、吉井良平、石井規夫、福村博士、國松宏史、川口裕子、森沢光男、大森美寿枝(以上21名)

新春登山&新年互例会

By:H.Fukumura

今年は1月12日に以前、2013年第6回山城探訪会でも上ったことがある東広島市下見地区の二神山(標高313m、比高90m)に赤木会長他

2月例会のご案内

日時 2月24日(土) 13:30~
場所 市役所北館1階 市民協働センター
研究発表 「全国古墳巡り」

福村博士氏

総勢13名が駐車場に集合して、10時から新春登山を開始しました。

この日は晴天に恵まれ、まずは南の本城跡を目指し快調に登ることが出来ました。

久しぶりの二神山に到着して驚いたのが、眼下に見える風景に大きな掲示板があった事でした。初めての登山者にもそこから見える風景の山々等に表示がありよくわかりました。そこでは山城探訪会の吉田リーダーからあらためて菖蒲前のお話や様々なお話を聞くことが出来ました。その後一同が記念撮影した後、西のピークの城跡へ行き吉川方面を見ながら、かつての大内氏と毛利氏の古戦場の槌山城跡を偲びながら最後に東のピークへと登り一路駐車場へ、2時間余りで無事に帰ることが出来ました。



[参加者] 赤木会長、蔵楽(昭)、藤澤、吉田、國松、國永、大森、堀内、丸本、西本、山地、進藤、福村

その後は市内のレストラン白竜湖へ移動、中川さんと三嶋さんが合流しコロナ禍以来で久しぶりの新年互例会を開催しました。

互例会では大森さんから恒例の今年の干支である、甲辰と竜について詳しく説明があり、辰年60年のできごとや辰年生まれの有名人の一覧が紹介されました。

今年は新年早々、石川県能登半島地震があり大変な災害が発生しましたが、まずは我が東広島郷土史研究会が創立50年を迎え、記念誌編纂事業や県史協東広島大会の開催など大きな行事がある節目の年であることを認識し、素晴らしい年になるよう参加者全員が確認して互例会を納めました。

第68回山城探訪会

安芸津町木谷は見どころいっぱい

吉田 泰義

11月3日(金)文化の日、高屋は霧に包まれて

いたのに安芸津に行くと青空で、コースの下見を3人で楽しんだ。

11月18日(土)寒波と強風で震えたが10人が元気に探訪した。



コース下見



探訪会本番

その1 郷地区の市子城跡

木谷地域センターから往復コースで、麓の小さな新宮神社に参拝し山間の坂道が上がっていくと、畑が谷間に連っており半分ぐらいは野菜が造られていた。約1キロ30分ほどで赤ジャガ畑の周囲を歩きながら北の山並みと西の三津の町並や海が眺望できる絶景の丘陵地であった。そこから市子城の山頂に簡単に入れて一休みした後には先導のK氏が詳しく解説、標高60m、比高40m、南側に向け5段の平坦面(郭)、北側頂部は10×20mほど、北は堀切で約5mの比高があり土橋で通っていたか、堀切の北側に低い土塁状が見受けられた。東側斜面の山道は凹が南北に見受けられやはり堀切だったと思われる。下に行くほど広く山仕事に適して物置小屋の跡に石垣が残っていた。城跡を探訪するコースは、①下市後宅と中市後宅の間の道を曲がりくねり細い急な道を登る、②北東の畑から山頂へ入れる楽なコースがあるが、男女参加者の体力年齢を考慮し②のコースから探訪した。

よく聞かれることの一つに城主は誰！有名な城を除いて文献も見当たらないが、市子城は木谷氏の家の子が海上を見張っていたのであろう。参考までに竹原小早川氏の身分が文献にあったので概略を紹介しておく。

身分	区分	主な氏
親類 一家一族	庶子家 独自の所領	草井 小梨子
親類 家の子	本家より 扶持を受け	南 木谷 武部
内の者	歴代の家臣 沙汰人 新参衆	風早 山田 有田
足洗 あしあらい	名字なし	中間に 近い者
中間 ちゅうげん	名字なし	百姓など 取り立て

その2 赤崎地区の歴史探訪満喫

2-1 安芸津農産物加工センター

昼食後に「木谷の歴史と見どころ」を作成した20ページの資料で案内役の2人が交互に解説し理解を深めた。

赤土じゃがいも「あきつ美人」生産・販売の有田園芸農場代表の有田氏も同席され赤崎の話も伺えた。



安芸津農産物加工センターで研修

2-2 赤崎城跡(有田城)

安芸津農産物加工センターすぐ上の山で、中腹まで探訪したが海がよく見えて見張りの城に最適であることがよく分かった。城主は竹原小早川氏の新参衆で有田氏と伝えられている。

2-3 三種神社

南に100段ほどの石階段があるが北側から参拝した。由緒は紀州の熊野から勧請され「三所権現」創建は天文年中(1532-55)の戦国時代と推定されている。明治時代に「三種神社」と改称され国家安泰を祈っている。主祭神はスサノオ命、イザナギ命、ハヤタマオノ命。社殿は本殿・幣殿・神楽殿、江戸時代の安永4年(1775)棟札、豪商元屋や栄屋が寄進している船絵図や手水鉢、狛犬、戦勝祈願石碑、巨樹あれこれ色々学べた。例祭は5月3日で神楽も行われている。

2-4 赤崎薬師堂で健康祈願

有田氏建立お堂の中にはピカピカの小さな仏像があり拝観合掌した。



三種神社



薬師堂

加工センター駐車場より赤崎海岸沿いを移動する途中で安芸津町7つの島(小芝島、大芝島、

藍之島、龍王島、鼻繰島、ホボロ島、唐船島)を紹介、ホボロ島は1世紀前には高さ10m程あったがナナツバコツブムシに侵食されてわずかに海面に頭をのぞかせている不思議な島である。

3-1 ニ馬手浜塩田と塩竈神社

木谷の製塩は元禄3年(1690)ニ馬手浜第1、元禄6年(1693)本江浜、元禄9年(1696)ニ馬手浜第2が相次いで築調され発展、その後1世紀余り後の文政13年(1830)宮沖浜にも築調されているが、昭和5年(1930)には全て廃業している。今も残っているニ馬手浜の「塩田に海水を引き込むために築かれた桶門」や「塩竈神社」を見学した。

3-2 地蔵様に合掌し閉会

西之谷地区の塩田跡は埋め立てられ工場群地域と住宅団地に変貌しているが、文化13年(1816)に木谷の雲下に元屋万助が海上安全祈願して建立している「地蔵菩薩」に心が和んだ。

住宅地の上に海が眺められる古い墓地では、江戸時代後期に先祖供養と塩田の発展を願って大黒屋の木峰和平が建立した三面に顔がある「三顔地蔵」にしばし感動して魅入った。



地藏菩薩



三顔地蔵

4 安芸津町大好き

28回山城探訪会を9町その他で実施したが安芸津町は5回【2015年に三津松尾城跡～風早祝詞山神社、2018年に木谷重信城跡～慶寿院、2020年に風早東城跡～三津の寺社巡り、2022年に風早西城跡～浄福寺～郷巡り、2023年に木谷市子城跡～赤崎海岸】。

平成17年(2005)東広島市に合併し18年の間に春夏秋冬毎月遊びで訪れている安芸津町は見どころいっぱいである。【合掌】

【広島を歩いたベトナム象 6】

ーベトナム象は「飢坂」を登った?ー 赤木 達男

享保14年4月8日(1729年5月5日)、旧山陽道最大の難所・大山峠を踏破したベトナム象は、

2号線沿いのミスターマックスの駐車場と国道の歩道との間に立つ「旧山陽道長尾一里塚跡」を経て八本松駅の辺りから南に折れ、少し南下し県教育センター前の道を東に進みます。

そして八本松東の(株)オンド北側を通過して「材修場跡の碑」までほぼ平坦な道を歩きます。ここから四日市宿までの最後の登り坂、「飢坂(かつえざか)」を越え西条の町(四日市宿)へと入ります。



昨年2月23日に郷土史研究会・前事務局長の大森美寿枝さんに「飢え坂」を案内していただきました。下の写真はグーグルMAPに当日の写真などで作図したものです。



「飢坂」の由来

案内板に「江戸時代にここを西国街道が通り、この峠の西側(八本松側)を飢坂と言います。」



「電子足跡：旧山陽道(西国街道)歩き旅 本郷宿から安芸中野へ最高地点 松子山峠・大山峠越え」からお借りしました

江戸時代、飢饉の時、ここで多くの人が飢えて力尽き亡くなったことから、この地名になったと伝えられています。」と由来が書かれています。

ベトナム象が西（八本松側）からこの峠を登った享保14年（1729）には既に「飢坂」と呼ばれていたのだろうか？いつごろから「飢坂」と呼ばれるようになったのか調べてみました。

江戸時代の4大飢饉と広島藩

次ページの上表はウィキペディアなどを基に作成した江戸時代の4大飢饉の表です。

4大飢饉当時の広島藩の動向を、広島県文書館が作成した「広島県史年表」から探ってみました。

寛永大飢饉（1642年）には、「百姓作食、種米に難澁する者多く、餓死者少なからず、凶作は正保元年まで続く」とあり、少なからぬ餓死者があったと思われます。その他、飢饉に関するであろう動きは「幕府、在々での酒造を禁止する」、「広島藩、儉約に励み耕作に精出すべきとの幕令を領内に布達する」だけでした。

享保の飢饉（1732年）に関しては、「うんか大発生、広島領の田畑損耗31万4,028石余に及び、翌春まで飢人32万4,255人、餓死者8,644人。福山領の田畑損耗5万2,917石に達し、翌春までの飢人2万830人、餓死者731人に及ぶ」と記されています。

享保の飢饉時の広島藩の人口は分かりませんが、その18年前の正徳5年（1715）の人口が55万4,000人、文政8年（1825）が72万6,000人という記録が残っています。これらから享保の飢饉当時の人口を単純に推計すれば58万5,000人になります。

とすれば、享保の飢饉で藩人口の半数以上（55.4%）が飢え、1.48%の人口が失われるという極めて深刻な被害です。それは、「飢饉救済のため郡中に救援米を支給」、「酒造りを3分1造りに制限」、「町郡中飢人救米3万3,470石、家中扶持米不足の者への貸米1万2,000石余、計4万5,470石余放出する」などの記述からも見て取れます。

天明の飢饉（1782年）に関しては「気候不順により凶作、広島領の田畑損耗11万690石余に及び、飢民少なからず」のみでした。

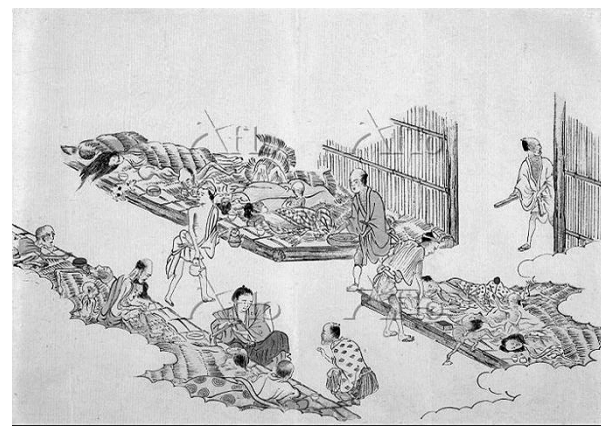
天保の飢饉（1833年）に関しては藩内の飢饉に関するものはなく、「広島藩、幕命により、米払底の江戸に1万1,400石余を廻米する」というものだけでした。

広島藩に記録されている96回の災害・飢饉

東広島郷土史研究会の一昨年12月例会で、蔵

楽恭子さんが『社倉（注1）』を通してみる近世の農村・村役』について研究報告されました。その時頂いた資料（飯田米秋著『東広島近世年表』）に、賀茂郡原村でいなごの虫害が発生、洪水で水漬かり（天保2年、1831年）。肥前の国（注2）の者、原村で行き倒れ死亡（天保3年）。広島、福山両藩とも旱、冷害による損耗甚大（天保4年）。天候不順、大凶作（天保5年）。春から秋にかけて洪水、凶作、大飢饉となり餓死者多数出る。賀茂郡志和村、西野村（注3）、造賀村に百姓一揆起こる。原村八幡神社で施しの粥が炊き出される（天保7年）。路上に死者多数出る、疫病流行（天保8年、1837年）とありました。

『広島藩』（土井作治著）によると18世紀以降の広島藩内で記録されている災害・飢饉は96回に及ぶそうで、中でも享保の飢饉と天保の飢饉は相当深刻な大飢饉だったようです。



「天保の大飢饉」渡辺華山「荒歳飢民救恤之図 九」
出典：ウィキペディア

「飢坂」はベトナム象の後に付けられた…？

「飢坂」の名がついたのは西日本各地、特に瀬戸内沿岸に大きな被害をもたらした江戸中期の「享保の大飢饉」か、江戸後期の「天保の飢饉」かのいずれかと思いますが特定できませんでした。しかし、いずれにしてもベトナム象が越えた時には、まだ「飢坂」の名は付いていなかった可能性が高いのではと思います。

享保14年3月13日（1729年4月10日）に長崎を発ったベトナム象は歩くこと26日目の4月8日（5月5日）、わがまち西条四日市宿に到着しました。

次号では西条四日市宿に着いたベトナム象の様子をたぐって見たいと思います。（つづく）

（注1）社倉：飢饉などに備えて米や雑穀を蓄えておく倉のことで、天明飢饉後に全

名称	時期	被害の中心地	将軍	原因	被害
寛永の大飢饉	寛永19年(1642)～ 寛永20年(1643)	全国(特に東日本・日本海側)	徳川 家光	全国的な異常気象 (大雨、洪水、早魃、 霜、虫害)	餓死者 5～10万人
享保の大飢饉	享保17年(1732)	中国、四国、九州地方の各地 (特に瀬戸内沿岸一帯)	徳川 吉宗	冷夏と虫害	餓死者 1万2千人 97万人とも 飢餓数 250万人
天明の大飢饉	天明2年(1782)～ 天明7年(1787)	全国(特に東北地方)	徳川 家治	浅間山噴火、アイスラ ンドのラキ火山等の 噴火とエルニーニョ 現象による冷害	死者 100万人
天保の大飢饉	天保4年(1833)～ 天保10年(1839)	全国、特に東北(陸奥国、出羽国)	徳川 家齊 徳川 家慶	大雨・洪水と、それに 伴う冷夏(稲刈りの 時期に雹が降ったと いう記録がある)	餓死者 125万2千人

国に広まったもの。広島藩の社倉は、海田市の儒者加藤缶楽の教えを受けた安芸郡矢野村の神官香川正直の指導によって矢野村・押込村で寛延2年(1749)社倉法による備荒貯麦をはじめたことに由来する。

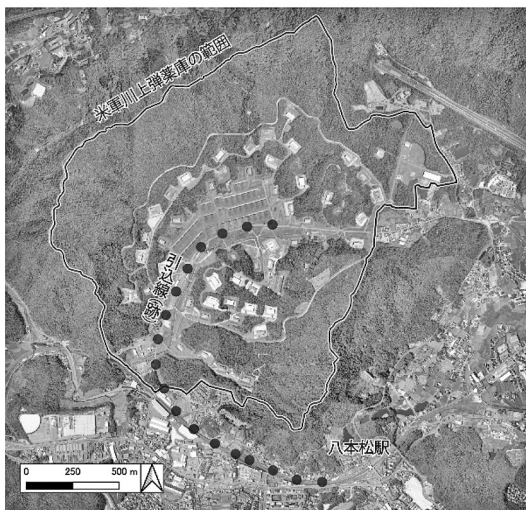
(注2) 肥前の国：佐賀県全域、および長崎県の壱岐・対馬を除く地域の旧国名。当時は鍋島成義が治めていた。

(注3) 西野村：当時の賀茂郡は竹原市域も含まれており、現在の竹原市西野町。

【八本松探訪14】

軍事施設2 川上弾薬庫

天野浩一郎



川上弾薬庫の範囲 横川知司氏提供

1. 海軍の弾薬庫設置に同意

太平洋戦争開戦の前年昭和15年(1940)6月、

当時の川上村宗吉部落に海軍の弾薬庫設置による土地の買収・家屋の立退きの話が突然湧いてきました。

部落の1戸から1名の107人が出席した会議で、呉海軍建築部の北崎主計大佐が「国家の運命をかけたこの戦争を勝ち抜くために、是非とも土地をお譲り頂きたい」と静かに頭を下げ懇請しました。

集まった人たちは北崎主計大佐の丁寧な言葉に一言の反対を述べる者もなく、土地の買収と家屋の立ち退きに苦渋の末同意しました。

2. 土地の買収、家屋の立ち退き・移転

宗吉部落の110名が土地買収調書に調印し、土地買収の交渉委員11名が補償について交渉しました。

<土地の買収面積>

田：39町3反余(約39.3ha) 畠：4町5反余
山林：89町1反余 保安林：196町5反余
宅地：8町余 その他：6町余/計343町余

<移転>

立退きの最終期限が同年10月20日までの指示があり、村外に5名、村内に38名の移転者が慌ただしく期限までに移転しました。(域内にあった鷹巣神社・天龍寺も移転)

3. 鉄道施設工事に伴う土地の買収、立ち退き

同時に八本松駅から弾薬庫に通ずる鉄道施設工事を行うため、同年7月31日に土地の買収、家屋立ち退きの協議会を開きました。その結果15人の土地の買収と7人の家屋の立ち退きが決定します。

同年8月26日には境界標識を設置する慌ただしさでした。

4. 太平洋戦争の終戦時には、100mm弾を数千

発保管し、60kgイペリット爆弾（毒ガス）638発が残っていたと言われています。（100mm弾は原村演習場で処理）

昭和21年（1946）2月、アメリカ軍が弾薬庫を接收し、使用を始めました。

朝鮮戦争の休戦後、昭和32年（1957）頃から10年間は遊休状態でしたが、昭和42年（1967）ベトナム戦争が始まり、運用が再開されました。

5. 現在

米軍川上弾薬庫は、米陸軍第83兵器大隊秋月弾薬廠（秋月弾薬庫、広弾薬庫、川上弾薬庫）の一つで、米陸軍が管理しています。

総面積は260haで、弾薬の貯蔵能力は約4万トンと言われています。

また、地域の周辺を整備する交付金が東広島市に出ています。

6. 弾薬庫内の様子

（東広島市教育委員会文化課 吉野係長の情報）

弾薬庫内には、身分証明書などを添えた入場の申請書を提出し、秋月弾薬廠が許可して入場できます。（パスポートは不要）



米軍川上弾薬庫の正門

弾薬庫内は草刈りなども行いきれいに整備され、広々とした環境に置かれています。

引っ越しをした鷹巣神社の跡地や石段が残り、今は使っていない鉄道のプラットホームもあり、線路は道路に変わっています。

弾薬は山中に掘ったトンネル内と、こんもりとした土塁に囲まれた建物内に保管しています。

【参考】海軍航空廠も併設か？

（「ウイキペディア」掲載の“環境省の資料”より）

川上弾薬庫内に住居があった住民は、昭和15年に海軍航空廠の建設に伴い土地を提供し、海軍航空廠で守衛として採用され働いていたと証言しています。

同証言者によると、当時の東門付近に壕が作られ、兵器や武器等が保管されていたほか、中山の北側の横穴式壕にも兵器や弾薬が保管され

ていました。

当時、これらの弾薬の中には、毒ガス弾も含まれているとの噂がありましたが、真偽のほどは定かではないとも証言しています。

（参考文献：「広島県川上村史」他）

《《新規会員募集中》》



HP



Instagram



Facebook

活動の様子を検索してね！

グループ研究会ご案内

第283回 古文書研究会

と き 2月20日(火) 13:30～
 ところ 市役所北館 市民協働センター
 テキスト 国郡誌御用書上帳賀茂郡奥谷村①

第182回 石造物研究会

と き 2月27日(火) 13:30～
 ところ 市役所北館 市民協働センター
 内 容 第5回石造物探訪会資料検討

第183回 四日市町並研究会

と き 2月13日(火) 13:30～
 ところ 歴史広場 吟古館
 「酒都西條」編集作業

山城探訪会

2月はお休みします。

原爆資料保存研究会

と き 2月15日(木) 14:30～
 ところ 市役所北館 市民協働センター

2月の図書室開放

と き 2月16日(金) 13:00～15:00
 ところ 高屋教育集会所

ひがしひろしま郷土史研究会ニュース 第594号

令和6年（2024）2月5日発行
 編集・発行 東広島郷土史研究会

会 長 赤木達男 TEL(082)423-7235
 E-mail:akata@akata.dion.ne.jp

事務局長 國松宏史 TEL090-7979-6234
 E-mail:kunimatsu402@hi3.enjoy.ne.jp

会報編集 間瀬 忍 TEL080-5756-2303
 E-mail:mase shinobu@yahoo.co.jp